

審査員講評

五所川原市教育委員会

学校教育課 主任指導主事 工藤 圭介 様

コロナ禍での生活を通して、家族や友人との絆、部活動や勉強の価値など、今まで当たり前だと感じていたことの大切さやありがたさを、あらためて感じた生徒が多かったようです。コロナ禍の問題を自分ごととして感じ、日々の具体的な生活体験や新しい発見などを題材にして、今の自分のことだけでなく、未来のこと、社会のことまで展望して考えている中学生の作文に感心しました。このような中学生が、コロナ禍を前向きにたくましく乗り越え、よりよい未来社会を築いていくのでしょうか。明るい未来を創る皆さんを応援したいと思いました。

つがる市教育委員会

教育長 葛西 山甚輔 様

新型コロナウイルスの影響で、休校や行事の中止・縮小など、学校生活に大きな影響が出ている中、どの作文からも「今まで当たり前だと思っていたことが当たり前でなくなった今、当たり前であった物が、どこかで誰かが頑張っているおかげなのだということに気づかされた。この状況を前向きに捉え頑張っていこう」という思いが伝わってきました。辛い思いや体験をしたことにより、皆さんの物の見方や考え方が、大きく広がったように思います。このような状況の中でも、たくましく成長する中学生の皆さんのこれからの活躍を期待しています。

鶴田町教育委員会

教育長 中野 雄臣 様

コロナ禍でいろんなことを制限される中、感じたこと、考えたことをよく綴り、今後の展望までもしっかり見極めている生徒たちの感性の豊かさに関心しました。

中泊町教育委員会

教育長 米塚 鈴子 様

「マイナスは、視点を変えるとプラスにもなる。」中学生の時に体験したコロナ禍は当たり前の日常生活が失われ、多くの不便や様々な困難に見舞われましたが、未来にこの教訓を生かしていくことを願っています。

東奥日報社

五所川原支局長 秋元 宏宣 様

コロナを経験して、家族や友人との絆や何気ない日常の大切さ、ささいな出来事にも関心を寄せ見つめ直すことができたことが、みなさんの作品を通して伝わってきました。中学生らしい意見の作品もあれば、鋭い観察眼で冷静に周囲を見つめていたり、表現力豊かで個性的な考え方をしていたりと、とても多様性に富んでいました。今後は「WITHコロナ」の意識は欠かせないでしょう。新たな生活様式の中でもくじけず、今回感じたことをこれからの生活で生かしてほしいと思います。

陸奥新報社

五所川原支社長 佐藤 靖男 様

どれも生き生きとした文体と表現で採点に苦勞しました。最初は、読んですぐ点をつけていましたがほとんど満点になってしまい、結局6～7回読み直してしまいました。楽しく読ませていただきました。ありがとうございました。

(公社)五所川原青年会議所

理事長 田中宏明

皆さんの作文を読ませていただき、コロナウイルス流行初期は皆さんが相当なインパクトを受けたものと先ず感じました。皆さんの生活環境が変わり自粛した生活の中で、今まで気がつかなかった日常生活のありがたさを感じ、コロナウイルス早期終息への想い、そして、その為に皆さん自ら何ができるのか考え、また、どのように行動するべきかを真剣に考えている事が伝わってくる良い作文でした。皆さんがこの思いを大事に日々の生活をしているからこそ五所川原の感染者数が現在の数でとどまっています。これからも、この想いを大事に生活してコロナウイルスの早期終息を目指しましょう。